

水輪

後援会広報誌

第42号

池の中に、小石をポンと投げたら波紋が広がる。それがどこまでも切れ目なくつながってほしいという願いがこめられている。



中学1年 宿泊研修(夕張・三笠・富良野)



高校4年 宿泊研修(サホロリゾート)



高校5年 研修旅行(広島・岡山・四国)

札幌大谷中学校・高等学校後援会の会員の皆様には益々ご清祥のことと心よりお慶びを申し上げます。さて、一昨年、昨年と二年続いて新型コロナウイルス感染症拡大の脅威が治まらない状況にあり、後援会の行事も計画通りに進めることができませんでした。また、卒業式や入学式も規模の縮小、短縮開催となるなど、かなり抑えた行事となりました。卒業された方、入学された生徒さん、そして保護者の方々には少し寂しかったかなと思っており、早く正常な毎日に戻って欲しいと願っております。

そのような中ですが、学校は創意工夫を重ねて行事を行っています。中学校の文化祭では、体育館と教室をインターネットで繋ぎ、発表をプロジェクトで見るという形で行ったそうです。三年生の研修旅行も計画されているそうですし、部活動も全国大会に五つの部が行かれるとの事。高校におかれましては四年・五年生が二年ぶりに宿泊をとまう研修旅行を実施したとの事で、何もかもがダメダメにならずに本当に喜ばしい事でした。美術部は「有島武郎賞」を二年連続受賞、「北海道教育長賞」「北海道新聞社賞」も受賞し、弁論部も全国高等学校総合文化祭に二年連続出場。他の部活動も全国大会出場が多々あるなど活躍目覚ましく、後援会としてもいろんな角度から皆様に応援させて頂きます。

二十二年度からは学校の進行も少し変わるようで、中学校の生徒募集定員が100名に変更されます。高校の一般入試はB日程からA日程に変更されるとの事です。後援会の特別奨学金は学習活動奨学金六万円が11名、芸術活動奨学金五千元が11名にそれぞれ支給されることになりました。この制度が生徒さん達の頑張りの糧になることを心から願っております。後援会の皆さん一人ひとりの力を結束して、生徒さん達への応援を宜しくお願ひ申し上げます。



「勇往邁進」

後援会会長
鈴木 忠 壽



大谷中学校・高等学校 校長

梅津 義信

「2021年を振り返って」

後援会の皆様には、平素より札幌大谷中学校・高等学校の学校運営と教育活動に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2021年度は昨年以上に新型コロナウイルス感染者が増え、緊急事態宣言も長く続く時期がありました。現在も新たな変異株の出現などもあり、終息のめどは立っていません。それでも、今できることに全力で立ち向かう事が大切であると思いつながら進み、昨年とは全く違った1年となったことを実感しています。

世の中においては、東京オリンピック・パラリンピックが開催されたことは誰もが記憶に残るものであったと思います。アスリート達の躍動が私達にたくさんの感動とメッセージ残してくれました。インタビュアーに応じる選手達は必ずと言っていいほど感謝の言葉を伝えていましたし、これまででこれだけ自己と向き合い心身の調整をしてきたのか、この大会にどれほど人生をかけてきたのが、ストリートに伝わってきたのを覚えています。閉会式の聖火の灯が消えるときに、シドニーオリンピック女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんのコメントで「聖火は消えるけど、それと同時に、世界の子どもの心に灯がともる瞬間でもある」と言っていました。そんな言葉に私は、「大谷生の中から未来のオリンピック選

手が誕生してほしい」という希望をもちました。

本校では、一昨年完成した人工芝グラウンド、体育館、教室等において生徒達の本来の活気が戻ってきました。そしてその成果は素晴らしいものであり、文化部、運動部合わせて20クラブが全国大会へ出場しました。また、美術科・音楽科においてもたくさんの全国レベルの活躍がありました。

一方、勉強においては講座や予備門、OST等で放課後遅くまで残っている生徒の姿があり、感染対策の徹底が日常化された中で課外活動や学習活動を充実させることができた1年でした。

今年特に優秀な成績を修めた生徒達に対し、後援会から学習活動奨学金と芸術活動奨学金を給付していただきました。生徒達にとって大変栄誉なことであり、今後に向けて大きな励みとなっております。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

コロナ禍であったからこそ学んだこともたくさんあった1年でした。今私達にとって必要なことは、現状に早く対応しつつ新しい事に挑戦し、さらにより良いものを創造していくことだと思います。

後援会の皆様と共に、さらなる発展に向かって歩んで行きたいと思っております。今後どうぞよろしく願います。



PTA会長

岡田 稔也

「日常」と「無常」 「コロナ禍の今を生きる」

後援会の皆様には平素より札幌大谷学園の運営に御理解と御協力を賜り誠にありがとうございます。

最近では外出時にマスクをする生活にもだいぶ慣れてきました。お店のレジには防護シート、並ぶ時は距離をあけるためのシールが貼ってあり、半年前には思いもよらなかったことが起きているのだとあらためて感じます。人それぞれに不安の感じ方や家庭の状況もそれぞれ違う中で、私たちはどうしていくべきなのか、何ができるのか、悩みはつきません。

お寺は生きることと死んでいくことをずっと尋ねてきましたが、「疫病を生きる」というような、こういう生活になるとは予想もしていませんでした。

こうなると思い出されるのは阪神淡路大震災のことです。震災から立ち上る時、復興という言葉を使いました。復は「かえる、ふたたび」という意味で、災害が起きる前の生活を取り戻したいという思いを強く感じます。

「日常」＝(イコール)「今日と同じ日が続くこと」だと考えていて、「へこんでしまった日常を何とか元の状態に戻したい」と考えていました。しかし視点を変えてみれば、へこんでしまったと感じる日常の中「ここ」に、私たちの「いま」があります。仏教の教えに「無常」ということが

あります。「常ならず」「変化して定まることがない」ということです。へこむ前の日常に思いを馳せ続けるのではなく「いま」私が生きている「ここ」がかけがえのない生きる場所だと実感し、関わりの中で我が身を生きることこそ大切なのではないでしょうか。

今回のコロナ禍についても「もし起きなかつたなら、以前だったなら」と考えずにはおれません。けれど、本当は新しくつくっていくしかないのです。誰にとっても他と比べることのできない、一回しかない今のこの時を受けとめて、戻りたいという思いを抱えて、この場所のできることを始めていく。悩みながら、迷いながら、「いま、ここ」から始めていきましょう。

これからも後援会の皆様には今までと変わらぬご協力、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

合掌



後援会が

応援して

います!



「抜粋」 後援会 奨学金支給規程

第二条 支給対象

- 第1項 学資の援助が必要な生徒に支給する。
- 第2項 教育活動の顕著と認める生徒・団体に支給する。

「抜粋」 会則第三条

本会は札幌大谷中学校・札幌大谷高等学校の建学の精神に立脚した教育方針に共鳴し、教育事業振興に寄与することを目的とする。

「抜粋」 会則第七条

本会の会計及び資産は会長がこれを管理する。但しその運用については学校長と協議・調整する。

更新会員振込み先 (ゆうちょ銀行)

口座記号番号

02740・2・20334

札幌大谷中学校・札幌大谷高等学校後援会

会費 3千円



高校女子バレーボール部

感謝

六年一組 山田 帆夏

私達高校女子バレーボール部は、現在6年生8人、5年生13人、4年生14人の計35人で春高優勝、日本一を目標に活動しています。新型コロナウイルスの影響で無観客試合が続いていますが、色々な方々の支え、サポートがあり、インターハイ、春高予選が開催されました。また、以前のように練習が出来ず、限られた練習時間の中でも個々のレベルアップ、質の高い練習を心がけ、技術面だけでなく、精神面の強化、筋力アップを意識して練習してきました。最後の大会、春高の全国が開催される予定なので練習してきたことを全て出し、大谷らしいバレーで支えてくださった全ての方にひとつでも多く勝ち進み、恩返しをしたいと思えます。



高校男子バレーボール部

高校男子バレーボール部の活動

五年五組 丹治 天晴

今年にはコロナ禍の中、インターハイや春の高校バレーは無観客でしたが、無事に開催されました。昨年は、ほとんどの大会が中止となってしまいましたが、今年には全ての大会が開催され、試合や練習ができることに感謝をして取り組んできました。創部2年目のため6年生がいない中、4、5年生のみで取り組んできた様々な経験を今後活かしていきたいと思えます。

来年は、北海道大会優勝という大きな目標を達成できるように試合や練習が出来ることへの感謝を忘れずに頑張っていきます。



中学女子バレーボール部

全国大会に出場して

三年三組 高橋 咲瑛

私たち女子バレーボール部は、8月から埼玉県で開催された中体連全国大会に出場しました。「日本一」という目標で今まで練習してきましたがベスト8という結果で終わってしまいました。とても悔しかったですが、全員が全力で楽しくプレーすることができ、予選で負けた東京のチームに勝つことができました。

私はこの学校に入学して仲間の大切さがよく分かりました。どんな事があっても一緒に乗り越えることができ、困っていたらすぐに助けてくれたり、共に笑い合える仲間は最高の仲間です。高校ではこの仲間達や新しい仲間と共に「日本一」を目指して練習していきます。



中学男子バレーボール部

中体連全道大会を優勝して

三年三組 清水 健州

私達は、全道大会で優勝出来たことを誇らしく思います。今まで先輩方が悔しい思いをしている姿を見てきて、次こそ自分達が全道制覇を成し遂げるんだという気持ちで練習に励んできました。練習では悔しい思いや投げ出したくなるような辛い思いを沢山経験してきました。しかしそれをチーム全員で乗り越える、協力し合える素晴らしい関係を築いていく中でバレーボール選手として人として成長していく事が出来ました。それだけではなく親や先生方、更に先輩方が自分達が全力でプレーに打ち込めるように支えてくれました。そして今までの自分達の頑張り、沢山の人の思いを受け大会に臨む事が出来ました。そして自分達は「大谷」と言うチームに全道制覇と言う新たな歴史を作る事が出来とても嬉しいです。



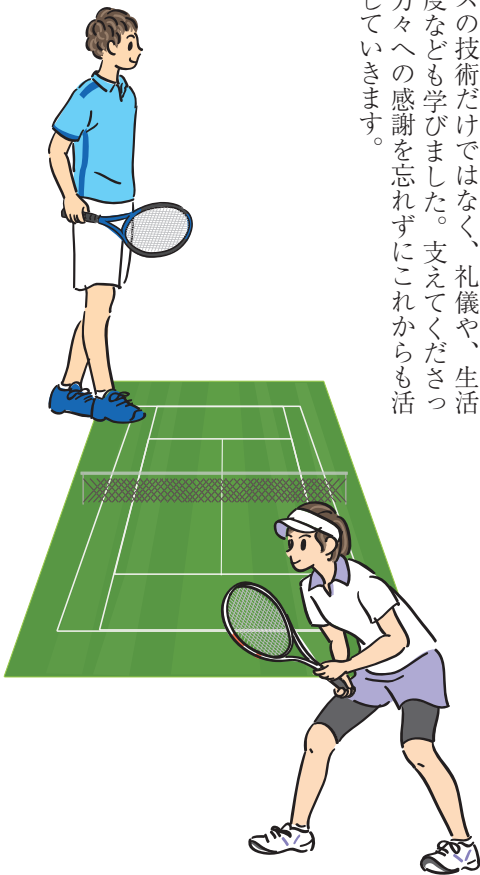
中学ソフトテニス部

中学ソフトテニス部

三年一組 菅原 萌音

現在、中学ソフトテニス部は3年生1名、2年生3名、1年生1名と数少ない人数で去年から活動しています。中学生のみでは活動内容が限られてくるので、高校生との練習で日々レベルアップしています。「全国大会出場。全国でも戦える選手に。」という目標を掲げ活動していました。今年度は新型コロナウイルスの影響で中体連をはじめ、春夏の大会がなくなり、活動が制限されてしまいました。しかし初めて出る大会では、優勝ができて、ここから良いスタートを切る事ができました。今年度は5人体制となり、中体連支部団体戦では3位。個人では優勝することができました。全道大会でも優勝することができ、晴れて全国大会の切符をとることが出来ました。全国大会では1回戦負けでしたが、新たな課題が明らかになりました。今はその課題に取り組む、来年の中体連、インターハイに向けて努力しています。部活では、ソフトテニスの技術だけではなく、礼儀や、生活態度なども学びました。支えてくださった方々への感謝を忘れずにこれからも活動していきます。

毎日、沢山の人の支えられてテニスができています。監督、先生、コーチ、保護者の皆様本当にありがとうございます。私たちソフトテニス部は、下克上します。勝利で皆様に感謝を伝えていきます。応援よろしくお願いします。



高校ソフトテニス部

下克上

五年四組 田村 京佳

私たちソフトテニス部は現在5年生10人、4年生3人、中学生5人で活動しています。団体戦、個人戦共に全国大会出場を目指して日々練習に励んでいます。

今年度の新人戦北海道大会では思うような結果を残すことが出来ませんでした。今、自分たちは何をすべきなのか、何が足りないのかをかんがえ、お互いに伝え合うことがとても大切だと思いました。インドア大会では、団体戦、個人戦共に全国大会出場を目指して努力していきます。

中学野球部

野球部での3年間

三年二組 福島 煌

僕は野球部として活動してきたこの3年間で選手として、人としてすごく成長することができました。僕は怪我が多くてたくさん迷惑をかけてきました。それでも大切に指導してくださった監督、コーチには本当に感謝しています。僕はチームのキャプテンを任せられることになりました。人前に立って話したりするのは昔から得意ではありません。こんな自分がチームを引っ張っていくのか不安でいっぱいでした。でも、上手くできなかった時は仲間が助けてくれたり、励ましてくれたり、本当に良い仲間をもったなど日々実感させられます。

そして中学最後の年、僕たちは目標にしていた全国大会に出場することができました。結果は一回戦で負けてしまいました。野球部全体として悔しさが残った大会となりました。

新チームが始まった時はよく、「一点でバラバラ」とよく言われてきました。チームのまとまりがなかったからで、チーム全体が同じ目標に向かってほしいということだと思えます。今では全国で負けた悔しさを胸に1人1人が全国でリベンジするという目標をもち、やっと繋がったこの思いを大切にこれからも全員で頑張っていきたいと思えます。



高校野球部

来年に向けて

五年二組 濱野 權

今年度は、多くの関係者のおかげで例年通り大会が開催され出場することができました。夏、秋と悔しい結果となりましたが野球ができることへのありがたみを強く感じた1年でした。

指導者の方々や家族など支えてくださった甲子園で勝つチームをめざして頑張ります。応援よろしくお願ひします。



中学サッカー部

初めての経験から学んだこと

三年一組 水戸 龍音

僕は今年夏に開催された「サッカー中体連全道・全国大会」に出場しました。初めて出場する全道・全国大会だったので緊張しましたが、日頃の練習の成果を発揮してベストを尽くすことができ、全道優勝・全国ベスト8という結果を残すことができました。チームの目標が「全道二連覇・全国ベスト8」だったので、それを達成することができて嬉しかったです。

また、大会を通して学んだことは、日常生活がプレーやチームワークに出るのでもとても大事であるということです。コロナ禍でこのような大会を開催してくださった方々や先生、仲間、支え応援してくれた親に感謝の気持ちしかありません。この結果に満足せず、感謝や向上心を忘れずに高校では日常生活も大切にしようとして上を目指し頑張っていきたいと思います。



高校サッカー部

今年度の振り返り

六年五組 岡本 大地

今年度の高校サッカー部は夏のインターハイは北海道二位という形で全国大会に出場は出来たものの初戦敗退となっていました。そして迎えた冬の高校サッカー選手権では北海道予選敗退となっていました。

今年度は昨年度同様、新型コロナウイルスの影響でほとんどの試合が無観客になりましたが、予定されていた全ての試合をすることが出来ました。このような環境を整えてくださった、スタッフやサッカー関係者、応援してくださった皆様、そして常に支えてくれた保護者など多くの方々に感謝しています。

来年度は今年果たせなかった「全国大会出場」「全国大会での勝利」という目標を果たせるよう頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願ひします。



高校バスケットボール部

バスケットボール部

五年五組 最上 葉名

女子バスケットボール部は全道ベスト4という目標に向かって『tender hearts(優しい心)・determination(強い心)・respect(尊敬する心)』を胸に、チーム全員で日々練習に励んでいます。11月にあったウィンターカップでは相手の学年が上とはいえ負けてしまい、とても悔しい思いをしました。その悔しさによりチームの練習に対する意識や向上心が高まり、とてもいい雰囲気での練習に取り組みれています。12月からは新人戦の予選リーグが始まるので少しでもいい結果を残せるように残り少ない練習も全力でサポートしてくれている人に感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思えます。



水泳部

伝統ある水泳部

六年四組 高 碧斗

私達水泳部は、選手29名、マネージャー2名で活動してきました。選手は各々のクラブチームで日々練習に励み、マネージャーは大会や遠征時のサポートや部費の管理などチームのために仕事をしています。今年度の水泳部は、昨年コロナウイルスの影響で結果を残す場を失った先輩方の分までやり切る思いで頑張ってきました。全道大会では、思いもよらないアクシデントもあり、一度チームの輪が乱れそうになりましたが、一人一人が仲間を思いやり、励まし合いながらチームを一つにしていきました。その結果、男女総合優勝をし、7名がインターハイに出場することができました。

これからも水泳部はチーム一丸となつて、感謝と努力を忘れずに頑張っていきたいと思います。



陸上部

全員で

五年五組 小田 葉月

私達陸上競技部は中学、高校合わせて38名で活動しています。今年も去年に引き続きコロナや競技場の工事の影響で思うように練習ができたわけではありませんが、そんな環境の中だからこそ、自分達の意見を出し合い、メニューの見直しやミーティングを踏まえて、お互いを高めあえたと思います。

陸上競技は個人競技です。それぞれが違った目標に向かって練習しています。ですが、決して1人では強くなることのできない競技でもあると思います。どこを改善したら良いのか、どんな練習をしたら良いのか、自分だけでは分からない所もたくさんあります。そこを協力し合い、そして応援し合い、全員が全力でそれぞれの最高の目標に向かって行く部活になっていきたいと思えます。周りで支えてくださったたくさんの方々、本当にありがとうございます。来年は全員で笑顔で終われるように、日々の練習に取り組んでいくのでこれからお願いいたします。



中高卓球部

インターハイ全国を経験して

五年一組 穴戸 春來

私たち卓球部は、今年の夏にインターハイに出場しました。昨年は新型コロナウイルスの影響で大会が中止となりとても悔しい思いをしました。今年度は感染予防をしっかりしたうえで大会を迎えることができ、去年の悔しい思いをおぶつけることができました。思うような結果は出せませんでした。インターハイがこのコロナ禍の中で開催されたことによって、当たり前前のごうができる喜びやいろいろな方に感謝することの大切さを改めて実感しました。

これからも卓球部は、昨年同様、「誰からも応援される明るいチーム」をスローガンとし、「北海道から金メダル」を目指して、頑張っていきたいと思えます。

大会への感謝とこれから

二年三組 清野 桜生

中学卓球部は、今年2回全国大会に出場しました。全国大会で良い結果を残せるように日々練習に励んできましたが、なかなかいい結果を残すことが出来ませんでした。2つの大会を通して卓球面はもちろん精神面や行動面でも学ぶところが沢山ありました。昨年度は新型コロナウイルスの感染防止のために、いろいろな大会が次々に中止されていき、とても残念な思いをしました。今年度は大会を行うことができました。今年度の感謝の気持ちでいっぱいですが、今年度の大きな大会は終わりましたが1人1人目標を持って日々練習を積み重ねていきたいと思います。

次年度は中学最後の年なので、よりよいチームを作り、全国大会で今まで以上に良い結果を残せるように頑張ります。

トピックス

フェンシング部

阿部 磨郁君

全国大会8位入賞!



全国大会に出場して

二年四組 阿部 磨郁

僕はフェンシングの全国中学生大会に出場し、八位入賞を果たしました。この大会は昨年度、コロナ禍で中止になり、約一年試合に出ることができませんでした。いつ試合が行われるのかという不安の中、兄や先輩、仲間たちと一緒に練習に励みました。この期間は自分のプレースタイルを見直すいい機会になりました。

試合当日は会場の雰囲気や、久しぶりの実戦で周囲に飲みこまれそうでしたが、気持ちをコントロールし、試合に集中することができました。その結果、入賞でき、海外遠征の権利を得ることができました。

しかし、コロナの影響により、海外に行けず、国内合宿となりました。同年代の強い選手と切磋琢磨し、より多くのことをプレーに取り入れられるように頑張りたいです。

次の目標は、中学生最後となる、全国中学生大会でベスト4に入ることです。そのために毎日練習に精進し、指導して下さる方々や応援して下さる方々により結果を伝えたいです。

フェンシング部

全国大会に出場して

五年三組 井下 玲菜

フェンシング部は現在高校生6人中学生9人で活動しています。他の部活とは違い中学生と高校生と一緒に活動しているの、毎日多くの刺激を受けながら練習することが出来ています。

今年コロナ禍の中でも多くの試合が行われ、中学、高校ともに全国大会に出場することができました。中学は全国大会で個人8位に入賞、団体5位という結果でした。高校は残念ながら全国大会上位入賞という目標には届きませんが、強い選手と試合をすることが出来、沢山のことを学ぶことが出来ました。

今回の経験を活かし次の大会に向けて各自の課題を克服出来るよう日々練習に励んでいきます。



チアダンス部

チアダンス部

六年五組 西尾 明梨

私達チアダンス部は、現在18名で活動しています。主に週5回、補助体や小体で、柔軟や筋力トレーニングをはじめとして、ジャンプやターンなどのテクニック練習、腕を動かすアームモーションの練習、また、大会演技の練習をしています。

今年度は、6年生7名が初めて全国大会に出場し、とても良い経験をすることができました。来年度も全国大会に出場することを目標にし、チーム全体で声をかけ合いながら、明るく練習に取り組んでいます。

大会練習のほかに、部活動の応援や学校祭での発表の練習もしてきました。コロナウイルスの影響で、発表する機会があまりありませんでした。来年度は沢山の人の見てもらせることを願って前向きに活動していくので、応援よろしくお願います。



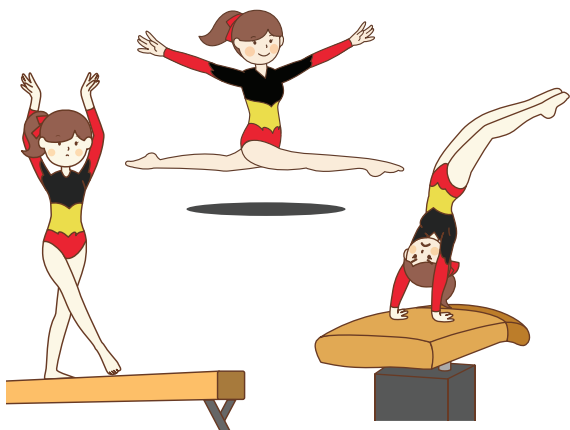
体操部

私たち体操部の今

五年四組 高國 礼葉

私たちが体操部は、現在男子部員はいませんが女子2名で活動しています。体操部は男子・女子と種目が違います。女子は跳馬・段違い平行棒・平均台・床の4種目で男子は跳馬・鞍馬・つり輪・平行棒・床・鉄棒の6種目です。

私たちは学校外のクラブに所属して週5〜6日で練習しています。練習前には怪我防止も兼ねて、アップを1時間以上かけて行います。ランニングや柔軟、そして体を支えるために筋トレもかかせません。技の習得、完成度をあげる等、終わりなく日々練習し、その成果として新人戦、インターハイや国体の全国出場を果たしました。
今後の目標は部員を増やして団体会で全国出場したいです。



書道部

日々の活動

五年一組 松浦 梨里

私たちが書道部は、展覧会出品に向けて漢字や仮名の作品制作に日々努力しています。個人的には、字のバランスや強弱、特徴や形を捉えて上達できるように練習しています。今年の目標は、高文連全道大会で優秀賞を受賞することでしたが、受賞することは叶いませんでした。来年は優秀賞受賞を目標に、スピードを意識して迫力のある作品を目指し、納得できるまで書きたいと思います。部としては全国へ行けるように、一人一人が字と向き合って最高の作品を目指します。今年度は新入部員がいなかったため、来年はたくさん入部してもらえようように、魅力的な字を書いたり呼びかけをしたりして部員を増やし、仲良く楽しく真剣にやっていきたいと思っています。



工芸部

工芸部

五年十組 藤岡 一音

私たちが工芸部は、粘土を使った食器・置物などの制作や、色の付いたガラスの棒を熱して作るとんぼ玉などの制作を中心に活動しています。部員のほとんどが未経験からのスタートですが先生や先輩に1から教えてもらいながら自由のびのびと自分の好きな物を制作しています。また公募展などにも出品でき、自分の作品と地道に向き合いスキルアップにも繋がります。新型コロナウイルスによる規制が昨年よりも緩和されたため今年度は制作する時間が増え良い経験ができました。次年度も作品のレベルを高められよう、より力を入れて制作に励んでいきたいと思っています。



演劇部

演劇部の活動

五年七組 金子 明鈴

こんにちは、演劇部です。私たちの部活は現在5年生2人、4年生4人の計6人の部員がいます。共に月水金の週3回ほどステージで部活動をし、年に数回学校などで公演をしています。年に一度の大会に向け、部員全員で日々切磋琢磨しています。

通常の部活では1時間ほどストレッチや発声練習をした後に稽古を始め、顧問や演出監督を務める生徒のアドバイスのもと役者や裏方が動きます。皆がそれぞれ、どうしたらより良い作品になるか、どう動くことより観客の心を動かせるか、を考え、力一杯活動しています。その成果が実り、今年度の高文連では「葬儀の予定」という作品で優良賞を獲得することができました。また生徒講師文が評価され、4年生が最優秀生徒講師委員として全道大会に出されました。この結果を励みにし、更なる高みを目指していきます。



美術部

美術部の活動

五年十組 樋渡 華菜

私たち美術部は、それぞれ公募展に出品する作品制作やデッサンなどを行っています。

昨年出来なかつた公募展なども今年から出品することが出来るようになったり、個人で様々な公募展に出品している人もいます。スクールアートライブなど、違う学年の人と協力して大きな作品を制作することもあります。個人的な活動になっていきますが、作品を通してそれぞれが成長できるように部活動に取り組んでいます。



弁論部

全国大会に向けて

四年十組 本間 友唯

私たち弁論部は、高校生3名、中学生1名の計4名で活動しています。8月に和歌山の高野山で実施された総文祭では、ベスト16と好成績を残すことが出来ました。また、10月に行われた全道大会では優秀賞となり、来年の総文祭にも2年連続で出場することが決まりました。

大会を通して、他の弁士の多種多様な弁論を聞くことができ、身の周りの社会問題について深く考える機会となりました。また、自分自身の弁論の改善すべき点を見つけることも出来ました。

この経験を活かして、今後も、来年の総文祭に向けて、努力を続けていきます。このような状況下ですが、これからも私たちの応援をよろしくお願い致します。



競技かるた部

競技かるた部

五年六組 坂本 雪葉

競技かるた部は高校生10名、中学生2名の計12人で活動しています。活動内容は主に模擬試合と自主練習です。高校生は全国高等学校総合文化祭や全国高等学校小倉百人一首選手権大会の北海道代表を目標に日々実力を上げています。中学生は高校生からのアドバイスを基に練習を行っています。

夏に和歌山で行われた全国高等学校総合文化祭では6年2名が北海道代表に選出され、ベスト16に入りました。また、4、5年生5名も秋に秋田で行われた東北・北海道大会の北海道代表に選出されました。

部員のほとんどが高校入学後にかかる始めた初心者ですが、練習を積み、大会での活躍や昇段を果たしています。また、全ての科、コースの部員がおり、それぞれのコースの学業とも両立しています。



吹奏楽部

逆境にもめげず 感謝の気持ちを忘れずに

五年八組 日尾 文香

コロナ禍で私たちの生活様式が変化し、思うように活動ができないのは：と不安な気持ちで今年もスタートしました。

恒例だった演奏会の中止もありましたが、25回目の定期演奏会は部員数の増加に伴い、今年は「かでる2.7」で開催され、たくさんの方々にご来場いただくことができました。

久しぶりとなった聴衆の前での演奏は局員にとって楽しく、皆様にも感動をお届けできたと思っています。

全日本吹奏楽コンクールでは、地区大会、全道大会とも第1位という好成績で3年ぶり2回目となる全国大会（東日本学校吹奏楽大会）に出場することができました。

この他にも、個人やアンサンブルの全国大会出場が決まり、吹奏楽局として躍進の年となりました。

今年も制限された中での活動でしたが、環境を整えて下さった学校や顧問の先生方、そして家族の理解と協力があり、良い結果を残すことができたと思います。これからも感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。

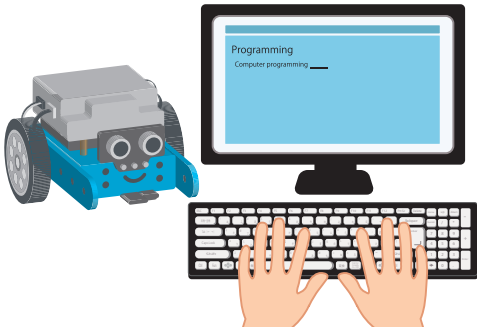


中高ロボット部

ロボット部活動報告

六年十組 石窪 公哉

ロボット部では毎年プログラミングを用いたサッカーや倉庫整理の仕事を模した競技の大会に参加していました。今年度はコロナ禍のために大会の中止が相次いだため、現在は各々のプログラミング技術を向上させるための勉強に励んでいます。ブロックを組み合わせるビジュアルプログラミングから始め、日本語による言語プログラミングの『なでしこ』に触れ、理解できた生徒から実際の社会でも多く用いられている言語である『python』の学習に移っています。プログラミングの勉強によってプログラミング技能が向上するのはもちろん、日常のあらゆる場面で論理的な思考、効率的な処理が可能になります。今後さらに高まる需要に応えられるよう、さらに勉強を続けたいと思います。



生物愛好会

川での経験

四年十組 松尾 夏希

今回、生物愛好会では7月にスナヤツメという魚を捕まえるために、西岡水源池にいきました。川に入り、部活のメンバーとスナヤツメを捕るために試行錯誤をしましたが、捕れるのは、フクドジョウやスジエビばかりで全然捕れずに諦めかけていた時、野鳥が見事な歌声を響かせ、魚が悠々と泳ぐ、深い淵をみつめました。「ここなら、捕れるかもしれない」と思った部長が「先生、入っていいですか。」という声とともに深い淵に飛び込み、それに続きほかのメンバーも次々に川へ飛び込みました。そしてついに、スナヤツメを捕まえることができました。

この経験から、魚の捕まえ方や川遊びの楽しさ、生物の大切さが学べました。来年は、今まで部活で行けていない化石掘りや魚釣りにいきたいです。



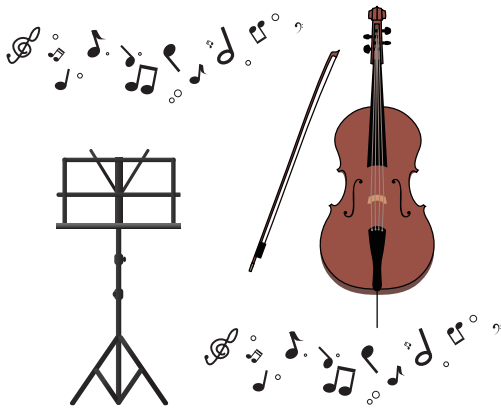
音楽科

感謝

六年七組 山崎 愛花

10月14日に札幌コンサートホールキタラで第36回音楽科定期演奏会を開催しました。合唱やソロステージはもちろん、舞台係などみんながそれぞれ自分の仕事を成し遂げていました。合唱では、授業数が少ない中で苦労しましたが、本番はみんなの気持ちが一つになり素晴らしい音楽を創り上げることができました。

私はチェロの伴奏をさせて頂きました。最初はチェリストの足手まといになるのではないかと不安でしたが、本番ではお互いに楽しんで演奏することができました。この定期演奏会のおかげでも素敵な経験ができたなと思います。



図書館

図書館の局長を終えて

六年一組 三枝 義豊

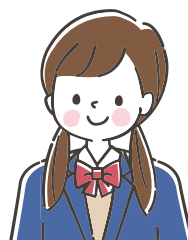
私は1年間、図書館の局長を務めました。局長の仕事は、月ごとに行う「LIBRARY」の企画のネタを考えたり、局員をまとめるなど、とても大変で、学校の時の比ではありませんでした。ですが、周りの局員や顧問の協力もあり、無事1年を終えることが出来ました。

私自身、局長になって人との接し方や効率良く物事を進める考え方を学ぶことが出来たので、図書館に入ってから良かったと思います。引き継ぎも終わり、これからは後を託した後輩たちが頑張っていてくれると思います。これからも、後輩たちが教師や生徒からの期待を裏切らないよう、「LIBRARY」を作成したり、企画展示を行ったり、盛り上げていくと思いますので応援よろしくをお願いします。



- ◆ 放送局
- ◆ 養真局
- ◆ 新聞局
- ◆ 写真部
- ◆ 化学部
- ◆ 手芸部
- ◆ マンガアニメ同好会
- ◆ 茶道同好会
- ◆ 華道愛好会
- ◆ 文芸愛好会
- ◆ 音楽愛好会
- ◆ ESS愛好会
- ◆ 囲碁将棋愛好会
- ◆ 中学バスケット
- ◆ バドミントン

他にも左記のクラブが活動しています



2021年度 後援会総会

(コロナ禍により今年度の開催なし)

- 議事
- ①2020年度 事業報告
 - ②2020年度 収支決算報告
 - ③2020年度 監査報告
 - ④2021年度 事業計画 (案)
 - ⑤2021年度 収支予算 (案)

2021年度後援会予算書(案) 収入の部

科 目	前年度予算額	本年度予算額	差 異
会 費	9,424,675	4,942,900	△ 4,481,775
その他の収入	20,000	20,000	0
前年度繰越金	15,055,332	5,037,037	△ 10,018,295
合 計	24,500,007	9,999,937	△ 14,500,070

2021年度後援会予算書(案) 支出の部

科 目	前年度予算額	本年度予算額	差 異
特別奨学費補助	800,000	400,000	△ 400,000
教育活動費	7,800,000	2,000,000	△ 5,800,000
クラブ活動費			0
行事費	500,000	400,000	△ 100,000
通信印刷費	600,000	450,000	△ 150,000
活動費	200,000	100,000	△ 100,000
後援会周年記念 事業費積立金	300,000	300,000	0
特別会計への 繰出金	2,000,000	1,000,000	△ 1,000,000
予備費	2,000,000	196,000	△ 1,804,000
特別会計 体文振補助費	10,000,000	5,000,000	△ 5,000,000
雑費	300,007	153,937	△ 146,070
合 計	24,500,007	9,999,937	△ 14,500,070

令和3年度 後援会役員名簿

顧問 小泉美子 大山越誠 山本秀樹 正傳潤映 巖城孝憲	問 栄幸樹 子幸樹 映憲	後藤部内平 藤部内平	眞大洋 眞大洋	一仁修美 一仁修美	後援会会長 鈴木忠壽	鈴木忠壽
参 戸谷白	与 梅泰敏	下野芳枝 有賀章二 武田薫子	津義信 津義信	慎介規 慎介規	後援会副会長 阿部健子	佐藤貴美子 小川如俊
学 校 教 事 教 事	校 長 頭 長 諭 務	梅津義信 鈴木慎介 山森真規 平田真琢 細谷亜佑 川田裕美子	岡田稔也 岡田稔也	榎垣尚子 榎垣尚子	監 事 渡辺啓一	五十嵐秀子
P T A 会 長	特別顧問				会 計 前田雅子	千種智子
					書 記 赤駒水美子 富崎良裕 佐田藤敦 小西芳 小林満 中村	安孫子恵 折目久洋 井上登志子 鈴木木登千 渡辺林純 小藤安

後援会活動報告

令和3年

2月16日 書記会(水輪)

2月26日 水輪発送

3月1日 卒業式

4月16日 運営委員会(中止)

6月10日 運営委員会(1回)

10月26日 運営委員会(2回)

12月15日 書記会(水輪編集会議 1回)

令和4年

1月19日 書記会(水輪編集会議 2回)

1月26日 書記会(水輪編集会議 3回)

2月3日 運営委員会(3回)

3月1日 卒業式



編集後記

「水輪」第42号発行にあたり、会員の皆様・担当の先生にはご多忙の中、沢山の原稿・ご指導を頂き感謝申し上げます。

今後とも尚一層、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集部一同